



梨の生産に関する資料が町の文化財である香住梨



サポート付き軽トラの普及を

サポートカーの購入補助を 創設するつもりはございません



南垣 誠 議員

自動車免許です。公共交通機関の十分でないこの地域では、通院や日常生活上、車を手放せないケースがあり、免許証返納に代わる有効な選択肢ではないかと思う。

買い換えができなければ、せつかくの免許制度が意味をなさない。
また、若者であっても安全なサポートカーに乗ろうという決意をされた方に、対象車両購入に対する補助金を創設しては、
町長 香美町で独自にサポートカー補助制度を創設することは考えていません。



2022年5月13日改正道路交通法が施行され、サポートカー限定免許が追加された。運転技能に不安があるドライバーでも、先進安全技術が搭載された認定車種に限り、走行が可能な普通

しかし、せつかくのサポートカー限定免許も車両が購入できての話で、対象車種はおおむね2022年以降製造の比較的新しい車種である。安全装備の分、車両価格が高額となり、車の

教育行政と連携し、担いのきつかけづくりを 発展的に取組みます



吉川 康治 議員

生涯学習課だけでなく農林水産課や観光商工課との連携も重要になってくる。例えば香住梨であ

れば、地域おこし協力隊の人と、子どもたちが主体的に企画した、子どもたちのための梨コンテストなどがあってもいいと思う。子どもたちは純粋においしい、おいしいと言います。
そういった経験を通し、香住梨に限らずほかの産業でもこのような取組は

やってみてもいいのではと思うが、町長のお考えは。
町長 できるだけ多くの皆さんにぎやかに参加していただくため、吉本興業の芸人さんにも農林水産省の絡みで参加をしていただき、子どもたちにも喜んでいただけるような計画をしています。

ご提言の教育委員会です。やっている様々な体験は、官民間問わず今までの地域の産業に関わっていただく子どもたちや若い世代の方々に対して、ある程度させていただいております。民間事業者にもしっかりと取り組んでいただいています。
議員から提案頂いたことも含めて今後も発展的に役場としても頑張っていきたいと思えます。

